やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」（青森）発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	31 / 2012 / 38 - 46
タイトル	部誌「やぶなべ」掲載　野内川流域の植物調査報告をまとめる
著　者　名	石郷岡　總一郎

部誌「やぶなべ」掲載

野内川流域の植物調査報告をまとめる

第25代　石郷岡總一郎

はじめに

部誌の復刻が成り、各世代が行った観察や研究が一覧できる様になった。改めて見直してみると、主要な行動フィールドは有る程度限られていた様だ。「十二湖」、「蔦沼」、「八甲田（酸ヶ湯・大岳など）」、「グダリ沼・田代平」、「横内水源地」、「稲山」などの地名が表題に散見される。

これら主要フィールドの中でも、「野内川流域」は、1973年頃より総合調査が行われ、19号（1973）～26号（1982）は、同地についての記事が満載され、貴重な資料を提供している。ただ、この頃の部誌は手書きで作成されていたものが多く、不鮮明で可読しにくい部分も多くある。そこで、部誌掲載の資料を基に植物リストをひとつにまとめることにした。

「みちのく有料道路」工事を挟んだ野内川流域総合調査と生物部

野内川流域の総合調査が始まるきっかけに少々関わった者として、紙面を借りて概略を記録しておきたい。

野内川流域と青高生物部の関係は相当古くから有った様だ。私の現役当時、「野内川」の名称はほとんど使われず、もっぱら「滝沢」と云われていた。同地へ行く手段のひとつである市営バスの終点が「滝沢」であった事が発端かも知れない。「滝沢」は、また、野内川上流に向かっての最後の集落でもある。

「滝沢」の名称が部誌に現れるのは、4号（1958）である。その後、ほぼ毎号の表題に「滝沢」の名前が見える。1970年代になるまで、これらの記事は「採集記」がほとんどで、観察記録としては8号（1962）の「青森市滝沢における新記録種」しか見あたらない。採集地や観察地としては、頻繁に使われていたがまとまった記録は残されていない。

1970年代に入り、「自然保護運動」の機運が全国的に盛り上がっていた。17号（1971）にも「自然保護の会（講演と映画）」や「自然保護について」の記事が見られる。ちょうどこの頃、野内川本流沿いに走る「みちのく有料道路」の建設計画が明らかになった。慣れ親しんだ「滝沢」が環境破壊される危惧を感じ、地域としての野内川流域への関心が高くなった。

会報2号（1973）の「おしらせ」に、やぶなべ第25代田中洋一を中心とした青森の自然を調査する会（「野の会」と称した）が作られたとある。また、部誌19号の「野内川調査」にも少し触れられている。この会は、主に「みちのく有料道路」建設による環境破壊を念頭に、野内川流域の自然環境調査を行うことが目的だった。この生物部OB（卒業直後）の活動と現役生物部員の思いが重なり、「野内川流域の生物総合調査」が開始された。

「みちのく有料道路」は、1976年2月に工事が始まり、1980年11月に工事終了・供用開始されている。部誌に記録されたものは、この工事を挟んだ期間になっており、概ね道路建設によって引き起こされる環境変化がまだ少ない状況下での調査結果であろう。往時から30年以上経過した今、みちのく

有料道路沿いには人工物が多くなり、自然環境も激変している様だ。生物部員の記録洩れなども多々有るだろうが、現状との比較資料として貴重と思う。

なお、「野の会」の成果物として「野内川流域生物リスト」が作成されたが、現在手近な所に無い。同資料が見つかったら復刻を試みる予定である。

部誌に掲載された野内川流域の植物調査

部誌に掲載された野内川流域の植物に関する記事は、以下の5編である。

野内川の植物、加賀谷康人、20号（1975）6～17頁

本文によると1974年4月から9月にかけて数回、野内川本流沿いに調査した結果とある。また、本文にも有るが、初めての本格的な調査であった。ただ、惜しむらくは、部誌作成当時から9～16頁に欠落が有り、130種前後のリストが確認できない。（約200種確認したという記述が有り、同誌掲載種は67種から推定。）欠落部分は、別紙で作成されたとの情報を得ているが、未確認である。内容は、植物名と確認地のリストとなっている。(以下調査年を元に、1974版と記す)

青森市野内川流域内のラン植物、加賀谷康人、21号（1975）13～19頁

1974～1975年に野内川流域で採集または写真撮影された18種のラン科植物が解説付きで掲載されている。(以下1975版と記す)

野内川の植物、坂美鈴、23号（1977）6～16頁

本文末尾に過去5年間の記録に基づき作成されたリストとある。174種が一部解説付きのリスト形式で掲載されている。20号より3年後で有るため、1974年版の欠落部分の資料が使われた可能性はあるが、数種ほど欠けているので定かでない。また、現地調査の期間なども不明である。(以下1977版と記す)

野内川の植物、和田龍一、26号（1982）8～16頁

1981年7月から1982年5月にかけて、7回の調査結果が記されている。説明文中も含めて45種掲載。観察結果の地図も付属する。本文中、「オオハンゴンソウが増えた」との記述があり、この頃には環境変化が起きていたことが分かる。(以下1982a版と記す)

野内川の植物植物一覧、菊池俊一、26号（1982）17～27頁

1982a版の本文中に1977版とその後の調査結果を合わせてリスト化とある。解説無しのリスト形式で、198種が掲載。(以下1982b版と記す)

今回まとめた植物リストをながめての感想

野内川流域（主として中～上流域が対象と思われる）の植物相としては、総数208種と「グダリ沼周辺」・「森の広場」・「大星神社境内」などと比べ、種数が少ないように感じる。おそらく調査洩れになった植物も多いだろう。ただ、当時の生物部員が調査に使えた時間などが限られており、致し方ない面もある。また、原本中に「同定出来なかった標本が有る」旨の記述が見られるので、調査された実数はもう少し多かっただろう。

この中で、ラン科植物は、集中的に調べられたようで23種を数える。近年調査された「グダリ沼周辺」・「森の広場」でのラン科植物は、共に一桁前半であることを考慮すると圧倒的な種数である。また、クマガイソウやアツモリソウなどが市街地の近くでも見られたことが判る。おそらく健全な自然環境

であった事を反映しているのではないだろうか。

一方、フジバカマがリストにあるが青森市の近郊で良く見られるヨツバヒヨドリは掲載されていない。両種は同属で、葉の形状などで区別される。当初フジバカマを確認し、花だけ見ていると区別がつかないヨツバヒヨドリは同じものと認識されたなどの誤認の可能性は否定できない。今回まとめた植物リストを利用する際、この例のような場合が含まれる可能性があるので、注意が必要である。

この植物リストは、約30年前（「みちのく有料道路」工事が始まる前後）の野内川流域の植物相の概要を示す数少ない資料となっている。一般に大規模開発が行われると帰化系植物が増える傾向にある。リスト中には、セイヨウタンポポ・ハルジオン・ヒメジョオン・ハリエンジュなど帰化系植物は10種ほど掲載されいるが、比較的古くから宅地付近で見られる種が中心である。前述の通り、近年各地で問題化している「オオハンゴンソウ」は、原本5編の内、みちのく有料道路工事後の1982a版で初めて記述されていて、工事の影響が伺われる。昨今の野内川流域は、みちのく有料道路の関係で人の往来や建築物の構築が増えている。おそらく、新たに帰化系植物が侵入し、植物相の大きな変化が見られることであろう。植物種の量的変化は比較できないが、現状との対比ができるほぼ唯一の資料として活用したいものである。

部誌に基づく野内川流域の植物リストについて

上記の5編に記されている植物をひとつにまとめてリスト化した。ただし、以下の改変を行っている。

1. 種名などの記述が、現在と当時同定に使われた図鑑などと異なっている場合がある。現行のものに統一するため、YList（http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html）掲載の和名・科名に合わせた。なお、部誌記載の和名と現行和名が異なるものについては、参考のため部誌記載和名に載せた。
2. 1982b版の植物リストに記載が無く、1982a版の解説文中のみに記載がある3種もリストに加えた。
3. 原本の植物リストは、草本と木本を別にしているが、これらを統合した。
4. 一部の植物リストでは学名も記されているが、省略した。
5. 並び順は概ねエングラーの体系とし、「科」内は学名（省略）順とした。
6. リスト中、各原本に記載された種を「○」であらわした。

リスト作成の元となった記事は、「やぶなべDVD統合版」や「やぶなべ会ホームページ：総目次（http://yabunabe.org/somokuji/）」から入手可能である。原本記載の解説部分は省略したため、これらを下記リストと合わせて活用して欲しい。

【表1】部誌「やぶなべ」掲載の調査報告に基づく野内川流域植物リスト

Engler科名	連番	和　　名	1974	1975	1977	1982a	1982b	原本記載和名
トクサ科	1	スギナ			○		○	
ゼンマイ科	2	ゼンマイ			○		○	
キジノオシダ科	3	ヤマソテツ			○		○	
イノモトソウ科	4	クジャクシダ			○		○	
	5	ワラビ			○		○	
チャセンシダ科	6	トラノオシダ	○		○		○	
	7	コタニワタリ	○		○		○	
シシガシラ科	8	シシガシラ	○		○		○	
オシダ科	9	シノブカグマ	○		○		○	
	10	リョウメンシダ	○		○		○	
	11	ヤマヤブソテツ			○		○	ヤブソテツ
	12	ホソバシケシダ	○		○		○	
	13	シケシダ	○		○		○	
	14	オシダ	○		○		○	
	15	ホソバナライシダ	○		○		○	ナライシダ
	16	クサソテツ			○		○	
	17	イヌガンソク			○		○	
	18	コウヤワラビ			○		○	
	19	ホソイノデ			○		○	
	20	ツルデンダ	○		○		○	
	21	ジュウモンジシダ	○		○		○	
	22	サカゲカタイノデ			○		○	
	23	コガネシダ			○		○	
	24	イワデンダ	○		○		○	
イヌガヤ科	25	ハイイヌガヤ			○		○	
ヒノキ科	26	ヒノキアスナロ			○		○	アスナロ(ヒバ)
マツ科	27	アカマツ			○		○	
スギ科	28	スギ			○		○	
クルミ科	29	オニグルミ			○		○	
カバノキ科	30	ヤマハンノキ			○		○	
	31	シラカンバ			○		○	
ブナ科	32	クリ			○		○	
ブナ科	33	ブナ			○		○	
	34	ミズナラ			○		○	
	35	コナラ			○		○	
ニレ科	36	エゾエノキ			○		○	
	37	ハルニレ			○		○	
	38	オヒョウ			○		○	
	39	ケヤキ			○		○	

Engler科名	連番	和　　名	1974	1975	1977	1982a	1982b	原本記載和名
イラクサ科	40	アカソ			○	○	○	
	41	ミヤマイラクサ			○		○	
タデ科	42	オオイタドリ			○		○	
	43	ヒメタデ				○	○	
	44	ミズヒキ			○	○	○	
	45	サナエタデ				○	○	
	46	イヌタデ				○	○	
	47	ミゾソバ			○		○	
	48	ギシギシ			○		○	
ヤマゴボウ科	49	ヨウシュヤマゴボウ			○		○	
ナデシコ科	50	カワラナデシコ			○		○	
	51	ウシハコベ			○		○	
	52	コハコベ			○		○	ハコベ
アカザ科	53	シロザ			○		○	
モクレン科	54	コブシ			○		○	
	55	ホオノキ			○		○	ホウノキ
クスノキ科	56	オオバクロモジ			○		○	
カツラ科	57	カツラ			○		○	
キンポウゲ科	58	オクトリカブト			○	○	○	
	59	ニリンソウ			○	○	○	
	60	キクザキイチゲ			○	○	○	
	61	ヤマオダマキ			○	○	○	
	62	シラネアオイ			○		○	
メギ科	63	キバナイカリソウ				○	○	
アケビ科	64	ミツバアケビ			○		○	
ドクダミ科	65	ドクダミ			○		○	
センリョウ科	66	ヒトリシズカ			○		○	
	67	フタリシズカ			○		○	
ウマノスズクサ科	68	ウスバサイシン				○		
マタタビ科	69	マタタビ			○		○	
オトギリソウ科	70	オトギリソウ				○	○	
ケシ科	71	エゾエンゴサク				○	○	
	72	ムラサキケマン			○		○	
	73	ヤマエンゴサク			○	○	○	
ケシ科	74	エゾキケマン				○	○	
アブラナ科	75	ナズナ			○		○	
	76	ユリワサビ				○	○	
マンサク科	77	マルバマンサク			○		○	
ユキノシタ科	78	ノリウツギ			○		○	
	79	エゾアジサイ			○	○	○	

Engler科名	連番	和　　名	1974	1975	1977	1982a	1982b	原本記載和名
バラ科	80	キンミズヒキ			○	○	○	
	81	オオヤマザクラ			○		○	
	82	ダイコンソウ				○	○	
	83	ウワミズザクラ			○		○	
	84	ヘビイチゴ			○		○	
	85	ツルキンバイ			○		○	
マメ科	86	ネムノキ			○		○	
	87	ヌスビトハギ				○	○	
	88	メドハギ			○		○	
	89	ミヤコグサ			○		○	
	90	クズ			○		○	
	91	ハリエンジュ			○		○	
	92	ムラサキツメクサ			○		○	
	93	シロツメクサ			○		○	
	94	ツルフジバカマ			○		○	
	95	クサフジ			○		○	
カタバミ科	96	カタバミ			○	○	○	
フウロソウ科	97	ゲンノショウコ			○	○	○	
ミカン科	98	キハダ			○		○	
	99	サンショウ			○	○	○	
ウルシ科	100	ツタウルシ			○		○	
	101	ウルシ			○		○	
カエデ科	102	イタヤカエデ			○		○	
トチノキ科	103	トチノキ			○		○	
ツリフネソウ科	104	キツリフネ			○	○	○	
	105	ツリフネソウ			○	○	○	
ブドウ科	106	サンカクヅル				○	○	
スミレ科	107	タチツボスミレ			○		○	
	108	オオタチツボスミレ				○	○	
	109	スミレ			○		○	
	110	アケボノスミレ				○	○	
	111	ナガハシスミレ				○	○	
	112	スミレサイシン				○	○	
キブシ科	113	キブシ			○		○	
アカバナ科	114	オオマツヨイグサ			○		○	
ウコギ科	115	ウド			○		○	
	116	トチバニンジン				○	○	
セリ科	117	エゾニュウ				○	○	
	118	ハナウド			○		○	
	119	チドメグサ			○		○	
	120	ウマノミツバ				○	○	

Engler科名	連番	和　　名	1974	1975	1977	1982a	1982b	原本記載和名
セリ科	121	タニミツバ				○	○	
	122	ヤブジラミ			○		○	
モクセイ科	123	アオダモ			○		○	コバノトネリコ
クマツヅラ科	124	ムラサキシキブ				○	○	
	125	クサギ			○	○	○	
シソ科	126	ナギナタコウジュ				○	○	
	127	カキドオシ			○		○	
	128	ウツボグサ			○	○	○	
ゴマノハグサ科	129	キリ			○		○	
オオバコ科	130	オオバコ			○		○	
スイカズラ科	131	ガマズミ			○		○	
	132	ミヤマガマズミ				○	○	
キク科	133	セイヨウノコギリソウ			○		○	
	134	ヨモギ			○		○	
	135	ノコンギク			○		○	
	136	ノアザミ			○		○	
	137	ヤクシソウ	○					
	138	ヒメジョオン			○		○	
	139	ハルジオン			○		○	
	140	フジバカマ			○		○	
	141	アキノノゲシ			○		○	
	142	オオハンゴンソウ				○		
	143	ミヤマアキノキリンソウ				○	○	コガネギク
	144	ノゲシ	○		○		○	ハルノノゲシ
	145	セイヨウタンポポ	○		○		○	
	146	エゾタンポポ	○		○		○	
	147	オニタビラコ	○		○		○	
ユリ科	148	ノビル	○		○		○	
	149	ギョウジャニンニク	○		○		○	
	150	オオウバユリ	○		○		○	
	151	ホウチャクソウ	○		○		○	
	152	チゴユリ	○		○		○	
	153	カタクリ	○		○	○	○	
	154	ヤブカンゾウ	○		○		○	
	155	ギボウシ属SP	○					
	156	マイヅルソウ	○		○	○	○	
	157	ツクバネソウ	○		○		○	
	158	ヒメイズイ				○	○	
	159	ミヤマナルコユリ	○		○		○	
	160	ユキザサ	○		○		○	
	161	サルトリイバラ	○		○		○	

Engler科名	連番	和　　名	1974	1975	1977	1982a	1982b	原本記載和名
ユリ科	162	シオデ	○		○		○	
	163	ヤマジノホトトギス	○		○		○	
	164	エンレイソウ	○		○	○	○	
	165	バイケイソウ	○					
	166	オオシュロソウ	○		○		○	
イグサ科	167	イグサ	○		○		○	イ
	168	スズメノヤリ	○		○		○	
ツユクサ科	169	ツユクサ	○		○		○	
イネ科	170	スズメノテッポウ	○		○		○	
	171	カモジグサ	○		○		○	
	172	オギ	○		○		○	
	173	ススキ	○		○		○	
	174	チカラシバ	○		○		○	
	175	スズメノカタビラ	○		○		○	
	176	エノコログサ	○		○		○	
サトイモ科	177	ヒロハテンナンショウ	○		○		○	
	178	コウライテンナンショウ	○		○		○	
	179	ミズバショウ	○		○		○	
カヤツリグサ科	180	ナルコスゲ	○					
	181	ミチノクホンモンジスゲ	○					
	182	カヤツリグサ	○		○		○	
	183	ホタルイ	○		○		○	
	184	カンガレイ			○		○	
	185	エゾアブラガヤ	○		○		○	
ラン科	186	エビネ	○	○	○		○	
	187	サルメンエビネ	○					
	188	ギンラン	○	○	○		○	
	189	ササバギンラン	○					
	190	アオチドリ	○	○	○		○	
	191	サイハイラン	○	○	○		○	
	192	シュンラン	○	○	○		○	
	193	クマガイソウ			○		○	
	194	アツモリソウ			○		○	
	195	イチヨウラン		○	○		○	
	196	エゾスズラン	○	○	○		○	
	197	オニノヤガラ		○	○		○	
	198	アケボノシュスラン	○	○	○		○	
	199	ヒメミヤマウズラ	○					
	200	ミヤマウズラ	○	○	○		○	
	201	ノビネチドリ	○	○	○	○	○	
	202	ジガバチソウ	○	○	○		○	

Engler科名	連番	和　　名	1974	1975	1977	1982a	1982b	原本記載和名
ラン科	203	クモキリソウ		○	○		○	
	204	スズムシソウ		○	○		○	
	205	コケイラン		○	○		○	
	206	イイヌマムカゴ	○	○	○		○	
	207	ネジバナ		○	○		○	
	208	オオヤマサギソウ		○	○		○	